



佐藤全孝、ステップス四度目の個展である。今回はグレー系の作品と、白地に赤の作品という二種類の展開を示した。私の下手な写真で、この世界の対比がここに上手く為されないことをお詫びする。

グレーの作品群は具象、抽象という枠を問題にせず、存在の根底から立ち上がる何かを感じる。それを「天地創造」などというベタな言葉では説明がつかない。人間は魂、精神、真理、靈魂を探り、求めてきた。それとは異なる。では何だろう。「森羅万象」か。「神のいない世界」か。事物か現象か。人間はそれをどのように乗り越えるか。

白地に赤の作品群は、非常に有機的に感じるのではあるのだが、これもまたそう簡単に定義することが憚られる。この作品を見て興奮した私は、画廊を出て銀座線に乗ると、以下の内容を写真付でFBに投稿した。

「この絵は俺だ！俺の瘡蓋だ。この絵は銀河だ。全ての銀河を包む宇宙だ！」。優れた作品とは作者の手を離れ、見る者の鏡を通過して、見る者そのものになる。そして見る者は更に変容し、銀河などちっぽけなものではなく、宇宙になってしまうのだ。そして自らの瘡蓋から作品へ帰っていく。佐藤の次回の展覧会もまた、楽しみになった。

